

谷に谷選した

全総選挙 於ては、日本労働党は我
組合同盟の組織地盤に二名の候補を擁
出した。即ち佐原、豊多摩地方(第三選
区)に加藤助十郎、南葛、南足立、北葛島
地方(第六選区)に松谷興二郎氏である。
一月二十七日の組合支部長会議の開催を
期し、之が應援対策を決定して、各実
共に選戦者側の政戦を行った。支部長会
議の指命の重要な点は、
政戦によりて、組合、組織、混血を
拒むべき様、総乃に兩陣に組織上の平
等の状態を計るべし、の注意を功しい、
我々等は、選挙運動を遂行せしむ、選
に

此應援者は党の指揮命令に従って動員す。

北葛島に虎東京府聯合、若内君、不所に
市電現実派の伊藤君、深川に党支部の川
野君を押し立てて、之れ又積極的に援助
せしめ、遂に一名の當選者なり、残念なが
ら悲惨なる結果に終った。

三

無産政党の政治戦は、単に當選だけを目的
とし、ない云々の理論は別に、選挙戦は
勝つことである、勝たなければたぬの確乎たる
方針が日労党の選挙対策として明かになり、
りし、は尚三回の実戦を通じて継承に証
す所、我等の勢力の足らざる事は論をま

一月、北葛島、南足立、野村、
野沢、佐原、
東京本部留守誌は
春日、白馬、中沢、
日労党の立候補せざる地方組合員、
票は、

無産党候補支持 候補なき所は選挙
新運動に努力すべし以上
斯く東京に於ける両工場労働者地帯を
とて各地に選挙戦を行はせしむ
谷加藤両君とて次ぎて、我等の勢力、
四日、乃に選挙の、海北選挙区、
由金部選挙は、
東京府選挙区、
在東京に全閣根拠、豊多摩に党本部三論は

たないにして、我等は、日労党の将来のた
めに、信る大家に求めんとするならば、も
つと真剣に確乎たる責任ある方針を明示す
北んことを望むものである。

四

我組合は既に南葛を中心にして党支部の組
織に着手し、党機関紙の講讀、党の諸集會
に對する援助、其他漸次党と組合との職分
を判別しつ、無産階級政治闘争の発展のた
めに協働し來つた。組合としての政治部の
活動は更に今後一層の研究と努力の必要を
感ずるものである。